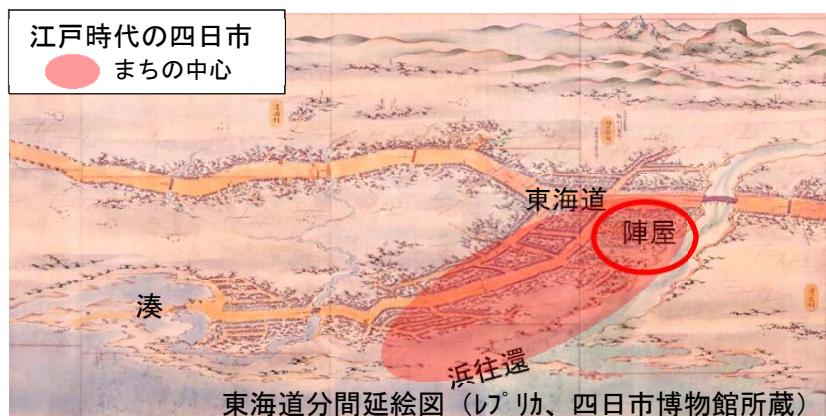


■近鉄四日市駅～JR四日市駅周辺の基盤整備の変遷

【中心市街地の変遷】

(江戸時代)

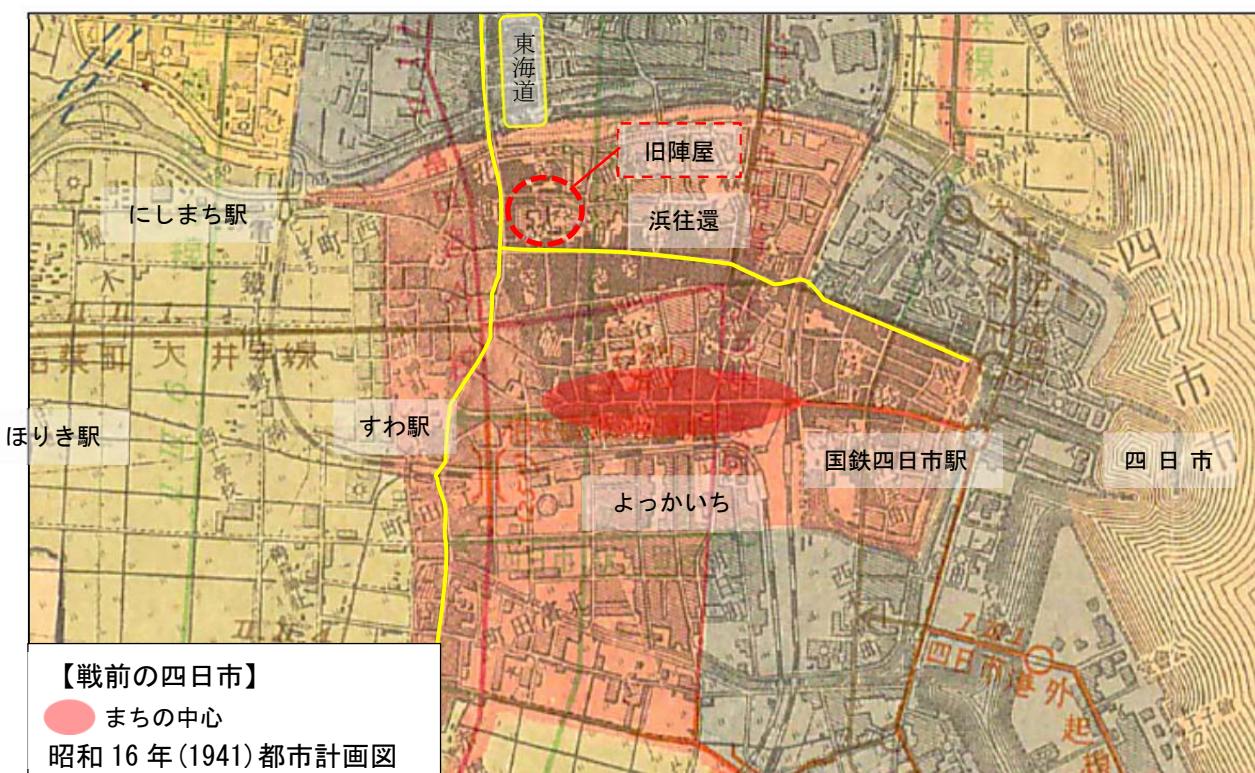
- 江戸時代は東海道の宿場町のひとつとして、街道筋に旅館や商店、陣屋、庄屋が建ち並び、商業・行政の町として発展してきた。また湊町として多くの廻船問屋・干鰯商・蔵などが軒を連ねる町でもあった。当時の中心は、東海道と湊を繋ぐ「浜往還」と呼ばれる道である。



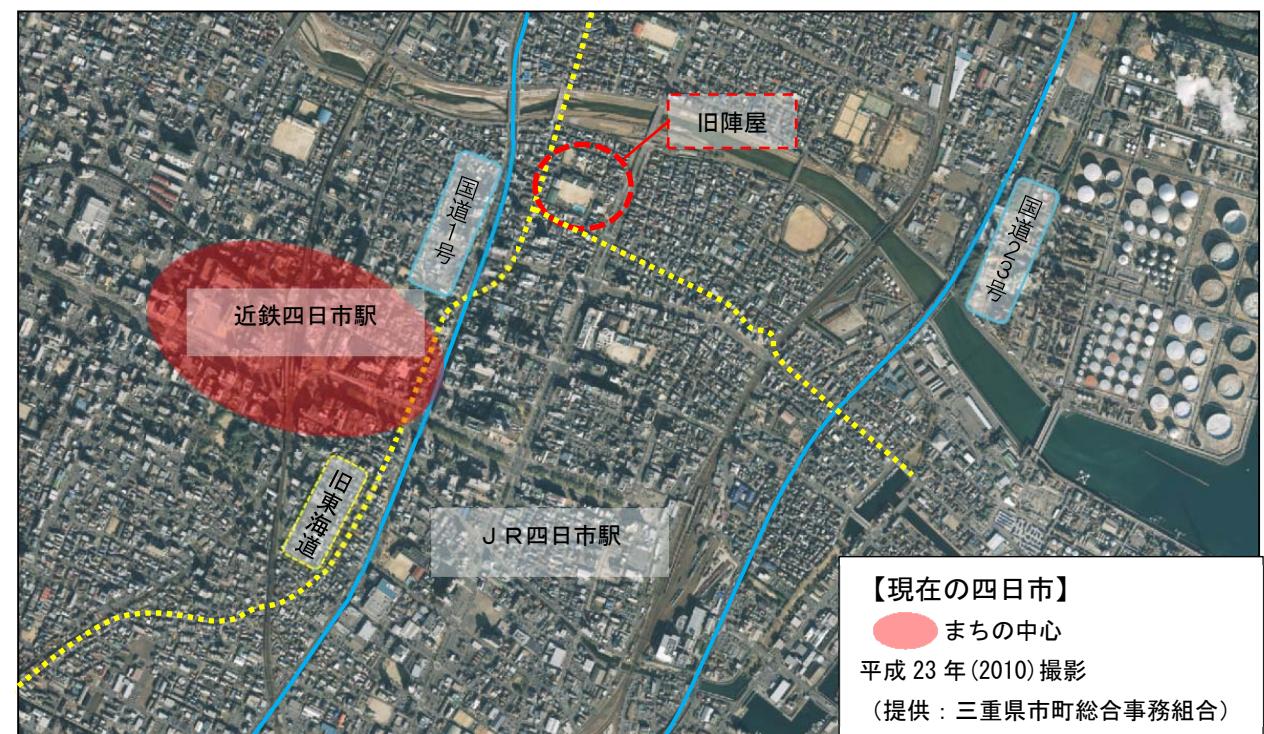
- 一方で「浜往環」など歴史的な通りは一部踏襲しているものの、その面影は無くなつた。
- その後、土地区画整理事業等の戦災復興事業による中心市街地の形成とともに、昭和50年ごろには近鉄名古屋線・湯の山線の高架化、近鉄四日市駅西側の土地区画整理事業等により、現在の駅前広場や中央通り等が整備され、今日の四日市の中心市街地が形成された。
- 中心街は「本町商店街」から「近鉄四日市駅周辺」に移った。

(戦前)

- 明治32年(1899)、四日市港は開港場に指定され国際貿易港となった。また鉄道も開通し、まちの中心は「浜往還」から、より国鉄駅に近い「本町商店街」へ移り商店街として振興していた。しかし太平洋戦争激化に伴い四日市港も軍需工場への転換を強いられ、その結果1945年6月18日に大空襲を受けた。

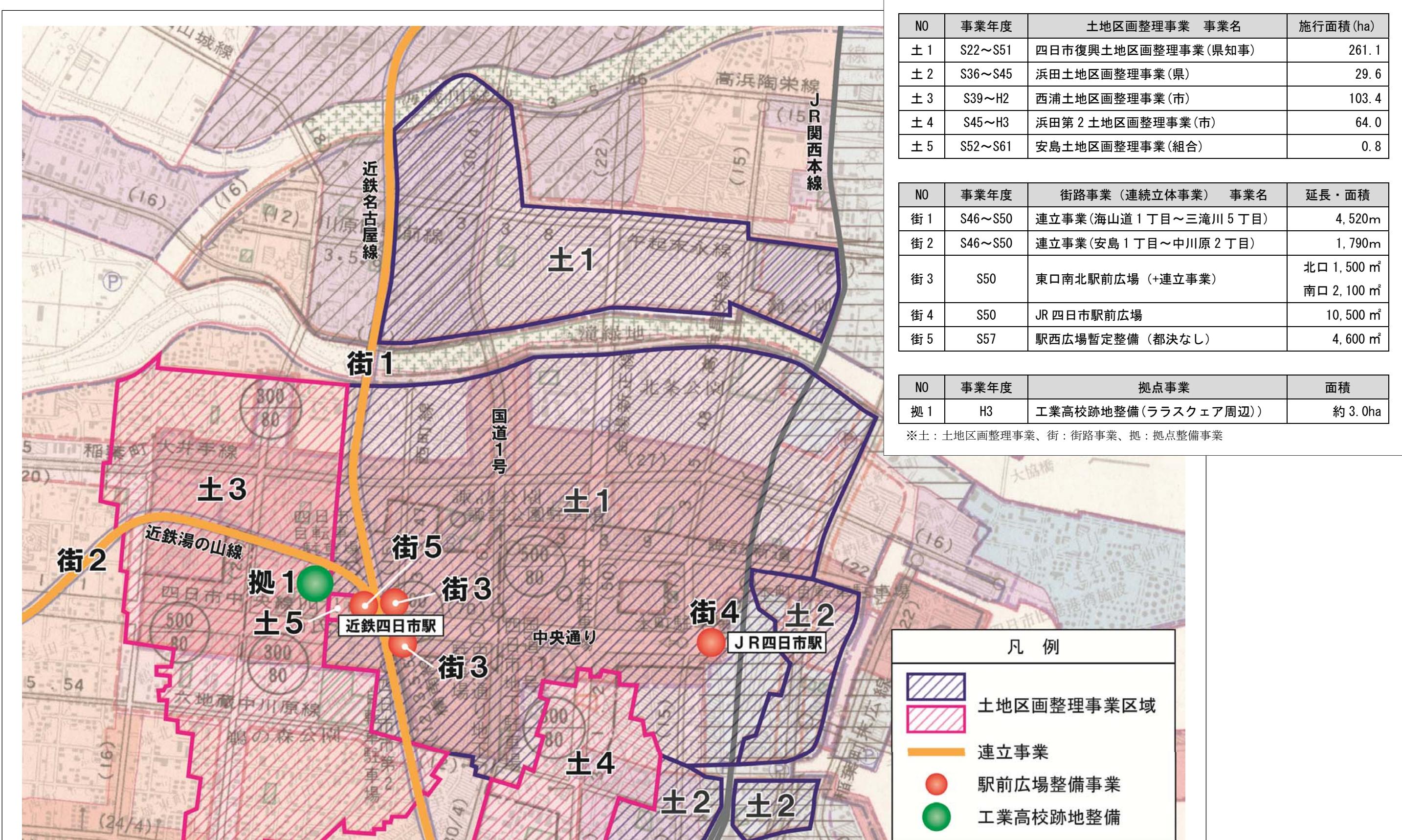


- 復興計画の中心は、近鉄四日市駅を諏訪に移転し、国鉄四日市駅を拡張して、この2つの駅を幅70mの道路(中央通り)でつなぐ計画である。この沿道は市役所などの官公庁、銀行など高層建築物の集合する商業用地域として指定された。



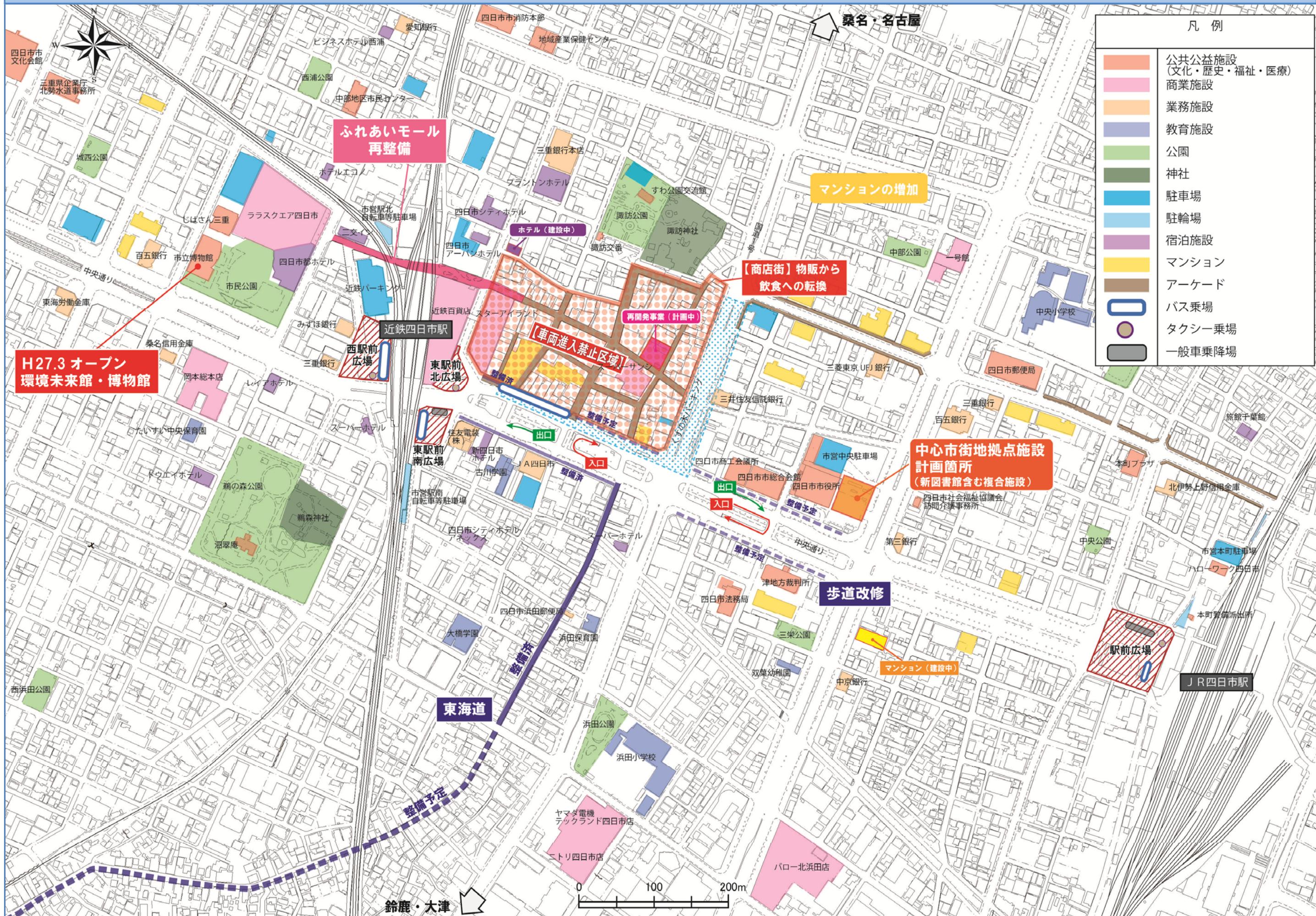
【戦後の近鉄四日市駅～JR 四日市駅周辺に関する基盤整備の変遷】

本市の基盤整備事業は、昭和 22 年戦災により焼失した中心市街地の復興を目的に 261.1ha の復興土地区画整理事業を行い、中央通りなどの都市基盤が整備された。次いで産業道路として計画した通称名四国道（国道 23 号）の工事に伴い都市改造を目的とした浜田地区(29.6ha)を行った。その後、昭和 40 年から近鉄四日市駅西の西浦地区(103.4ha)が 21 年の歳月をかけ、昭和 45 年から浜田第 2 地区(64.0ha)が 17 年の歳月をかけ、現在の中心市街地の都市基盤を築いた。その間に、近畿四日市駅を中心とした連続立体交差事業及び駅前広場整備事業を併せて実施し、県下における交通拠点としての位置づけを確立した。



■中心市街地の主な施設立地状況

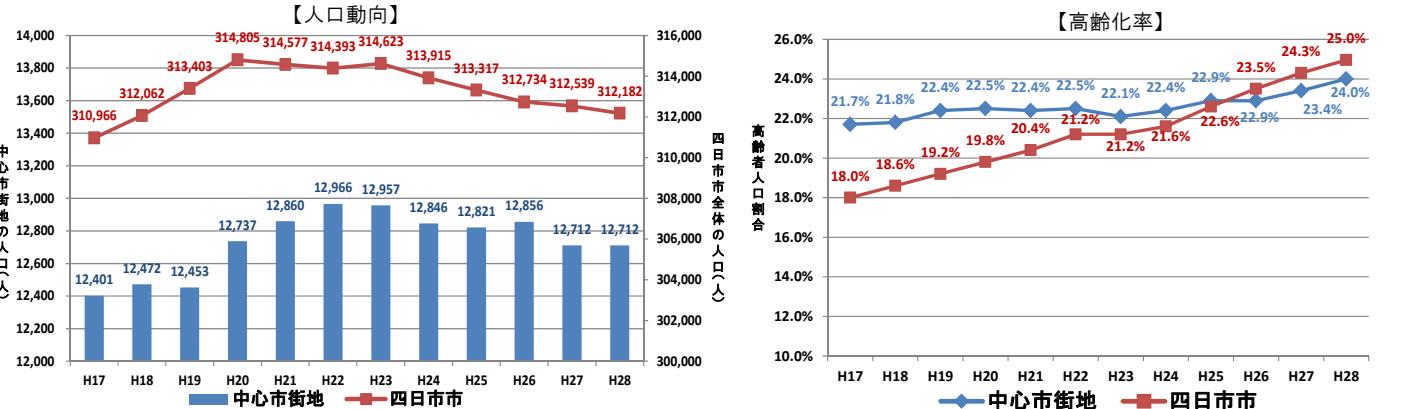
【近年の中心市街地の状況】



■ 中心市街地の現状

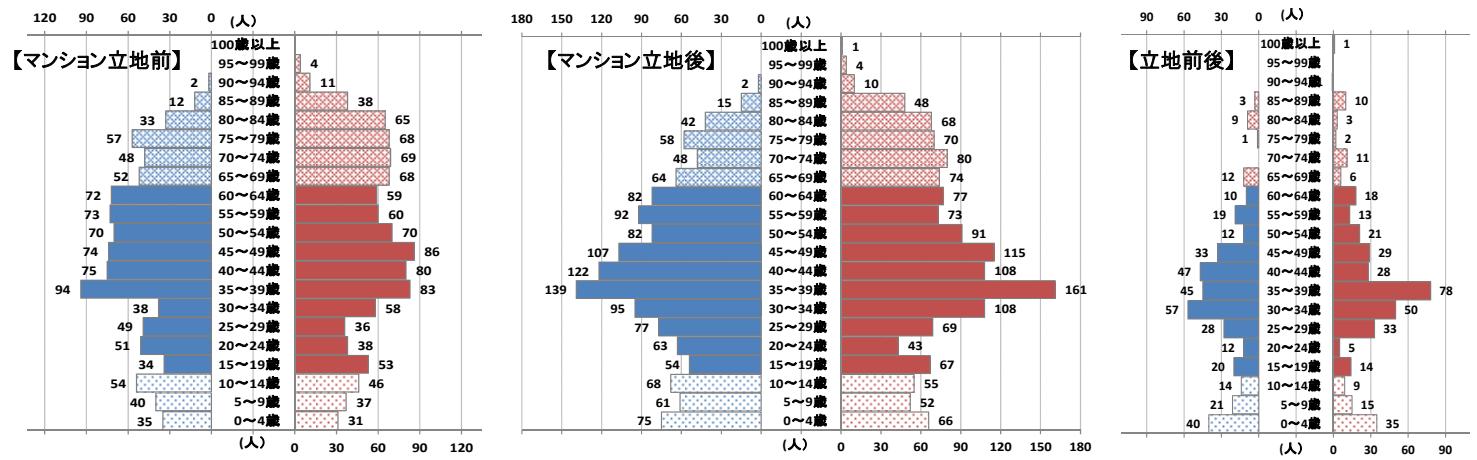
● 中心市街地の人口動向と高齢率：中心市街地の人口はマンションの立地状況により増減

中心市街地の高齢化率はH17以降横ばいであったが、近年増加



図：中心市街地と四日市市全体の人口動向と高齢化率の推移（住民基本台帳）

● マンション立地前後の人口構成：特に、30歳代・40歳代の居住者がマンション新設により増加。



※マンションが比較的多く増加した5地区の人口を抽出

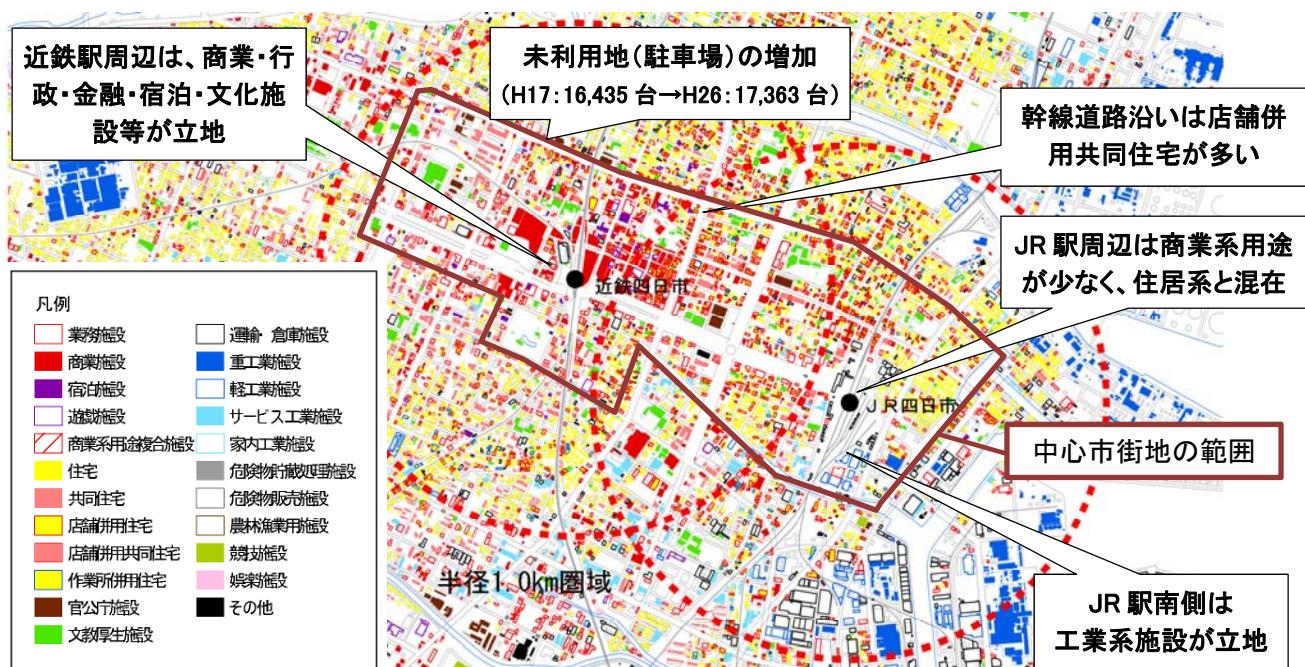
【抽出地区】：諏訪栄町
諏訪町
【抽出年度】：H19(前)～H20(後)

【抽出地区】：諏訪栄町
諏訪町
【抽出年度】：H20(前)～H21(後)
栄町 H25(前)～H26(後)
幸町 H24(前)～H25(後)

三栄町 H17(前)～H18(後)

図：マンション立地前後における5歳階級別人口構成（住民基本台帳）

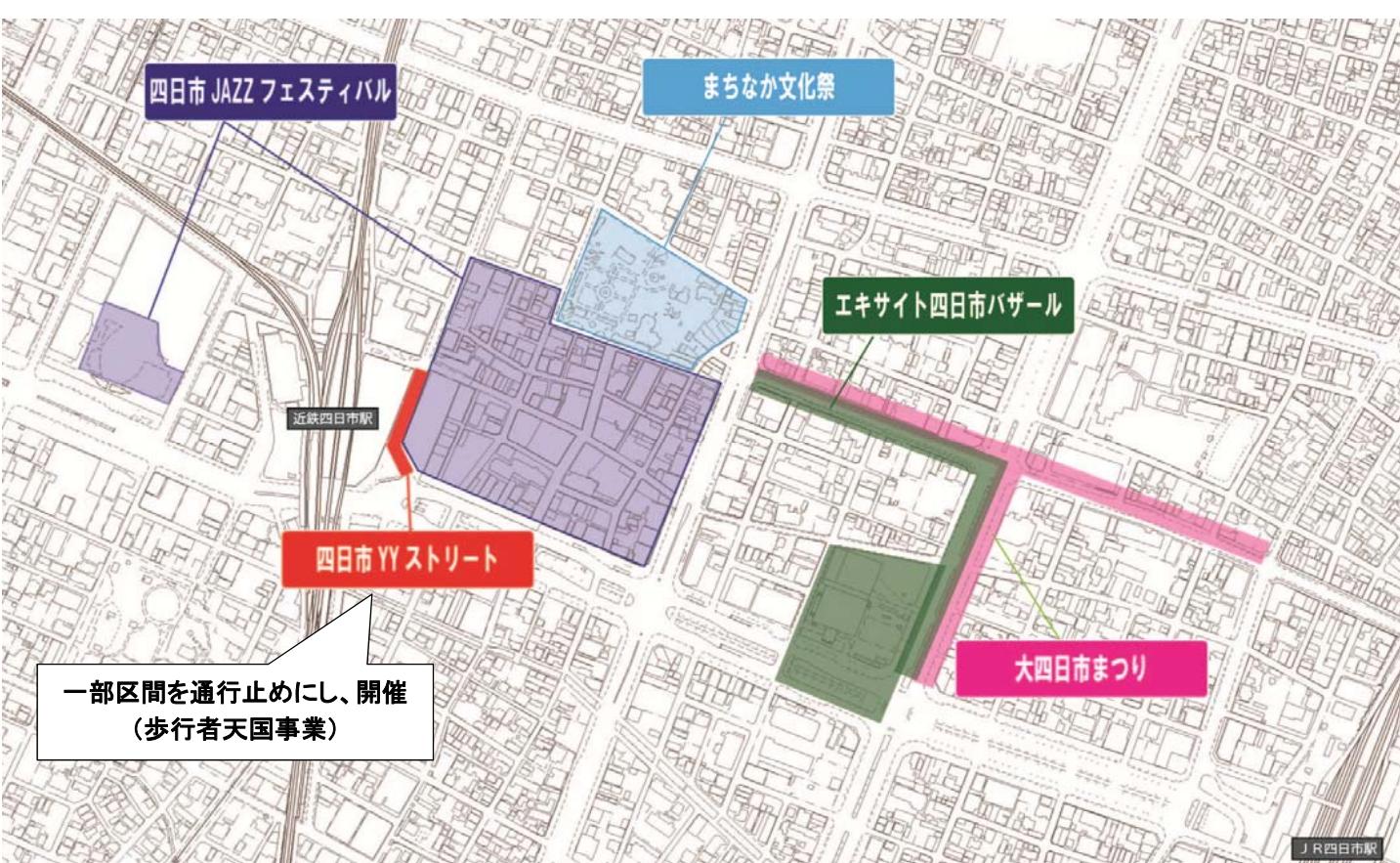
● 施設利用状況：近鉄四日市駅周辺に商業系施設などが多く各種都市機能が集積



図：建物用途現況図（H24 都市計画基礎調査）

● 中心市街地でのイベント開催状況（平成27年度）：1年を通して様々なイベントを開催し、市街地活性化に取り組む

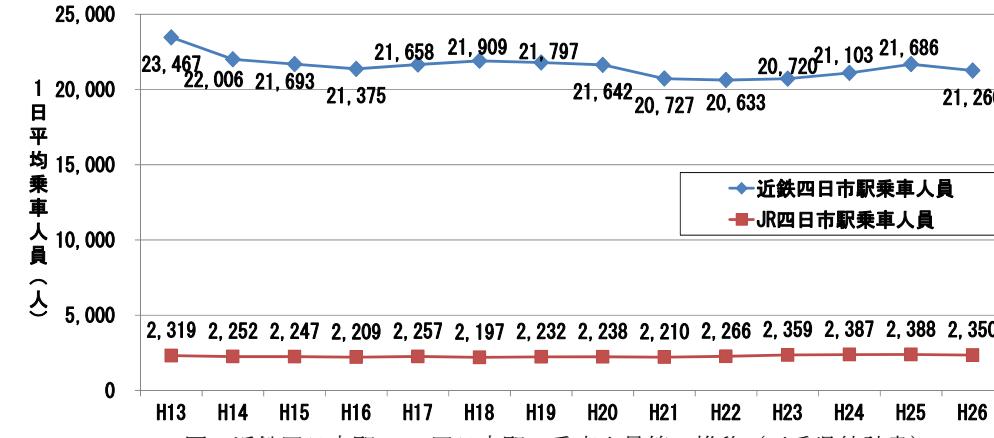
イベント名（H27実施日）	内容	参加人数
エキサイト四日市バザール（H27.4.4～4.5）	三滝通り、諏訪新道を会場に、飲食・物販等を出店	約40,000人
四日市まちなかバル（H27.5.27, 5.30）	中心市街地内の飲食店を活かしたイベント	約1,400人
よつかいちお菓子フェスタ（H27.5.24）	商店街の一部を会場として、市内外のお菓子事業者が出店し限定お菓子・スイーツを販売	約7,000人
大四日市まつり（H27.8.1～8.2）	市内中心部を会場として、おどりフェスタ、練りや山車など郷土の文化財をテーマとした催し等を開催	約226,000人
まちなか文化祭（H27.8.1～8.2, 11.7, 11.8）	市民の音楽発表や展示、こどもたちの職業体験イベントを開催	約1,300人
四日市JAZZフェスティバル（H27.9.12～9.13）	中心市街地内の駅、公園、街角などでコンサート開催	約23,000人
秋の文化財行列（H27.10.3～10.4）	諏訪神社の例大祭に併せて、商店街でイベント開催	約50,000人
三重の大酒造市（H27.10.11）	駅前商店街で県内産の日本酒等が飲める飲食が出店	約1,000人
四日市よさこい祭り「やったる舞」（H27.11.29）	諏訪公園や市民公園、駅前周辺でよさこい祭りを開催	約9,000人
近鉄四日市駅前イルミネーション（H27.11.6～H28.2.14）	東駅前広場、中央通り等でイルミネーションを実施	—
1,000,000人のキャンドルナイト（H27.12.20）	諏訪公園において約400個のキャンドルを設置	約1,000人
四日市YYストリート（歩行者天国事業）（H27.10.12）、（H28.3.13）	ふれあいモールから東駅前広場までの市道西町線一部区間を歩行者天国にし、出店や催しを実施。	約10,000人 約8,000人（H28）



図：中心市街地の主なイベント開催場所

【中心市街地の駅を結節点とした交通利用状況】

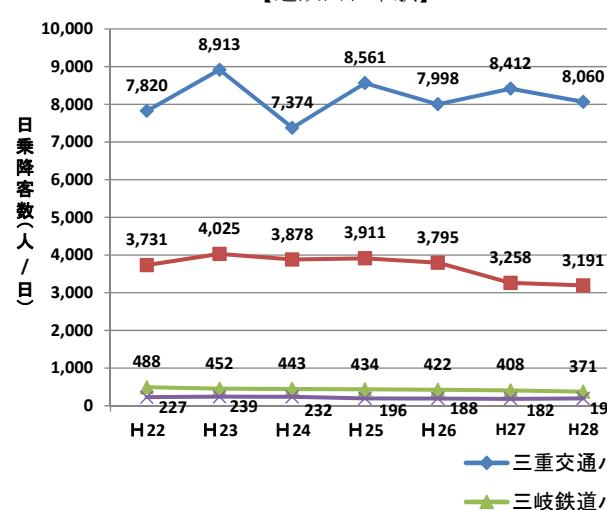
●鉄道利用者数：H13以降減少したが、近年は横ばい



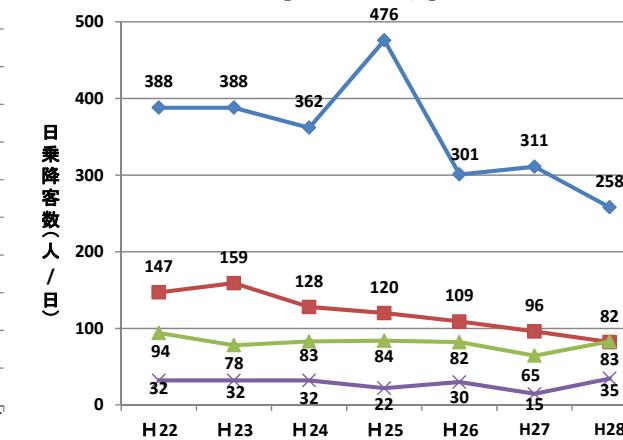
図：近鉄四日市駅・JR四日市駅の乗車人員等の推移（三重県統計書）

●バス利用者数：近鉄四日市駅前は平日約8,400人／日、JR四日市駅前は平日約340人／日が乗降

【近鉄四日市駅】

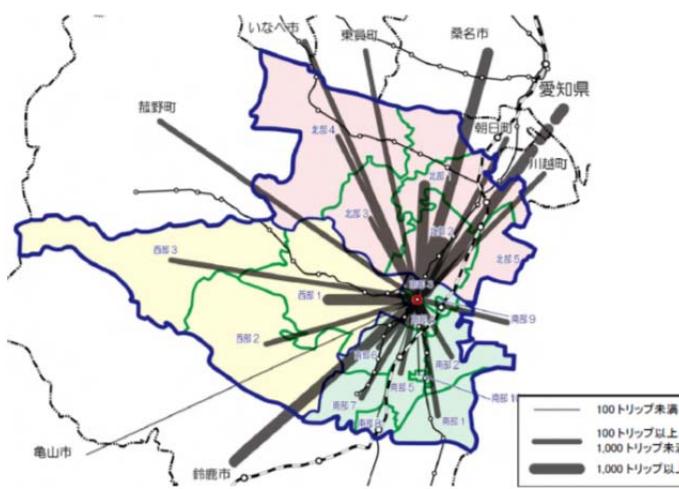


【JR四日市駅】

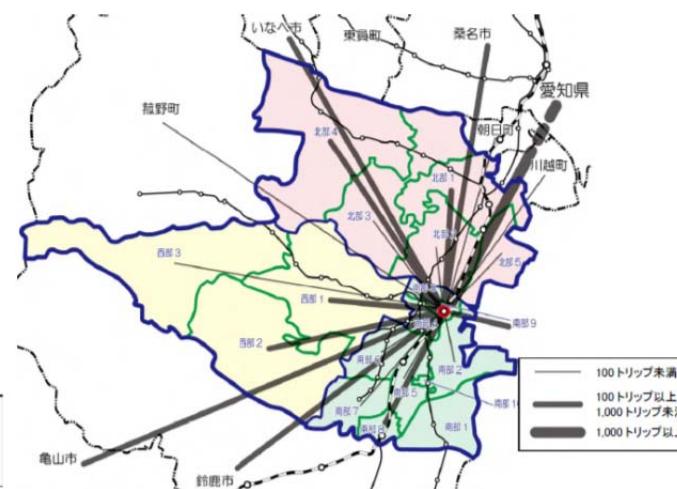


図：近鉄四日市駅前・JR四日市駅前のバス乗降者数の推移（三重交通、三岐鉄道）

●駅勢圏（鉄道利用者の出発地分布）：市内からが約6割前後を占める



図：近鉄四日市駅（第5回中京都市圏PT調査）

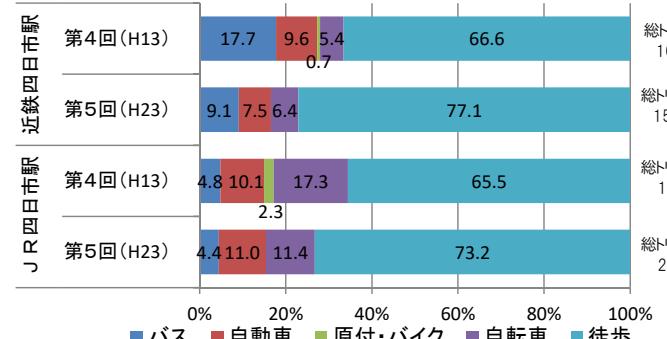


図：JR四日市駅（第5回中京都市圏PT調査）

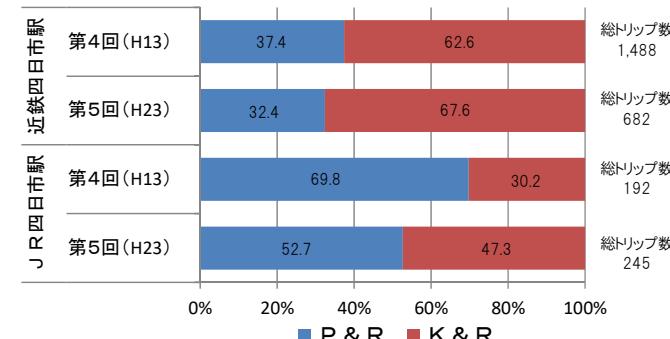
表：駅利用者の出発地分布（単位：%）

	四日市市内	三重県内（市外）	愛知県内	その他
近鉄	65.0	20.1	13.9	1.0
JR	57.2	20.3	20.5	2.1

●駅端末利用者状況：徒歩が増える一方でバス利用が減少、K&Rの割合が増加



図：両駅の駅端末交通手段構成の推移（中京都市圏PT調査）



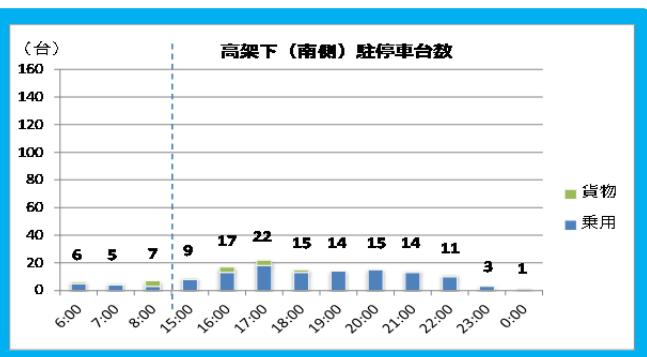
図：駅端末自動車利用のP&R、K&R割合の推移（中京都市圏PT調査）

●中央通り高架下駐停車状況（観測日：H26.10.9（木））：朝夕に多くの送迎需要



図：中央通り高架下駐停車状況（平成26年10月9日観測）

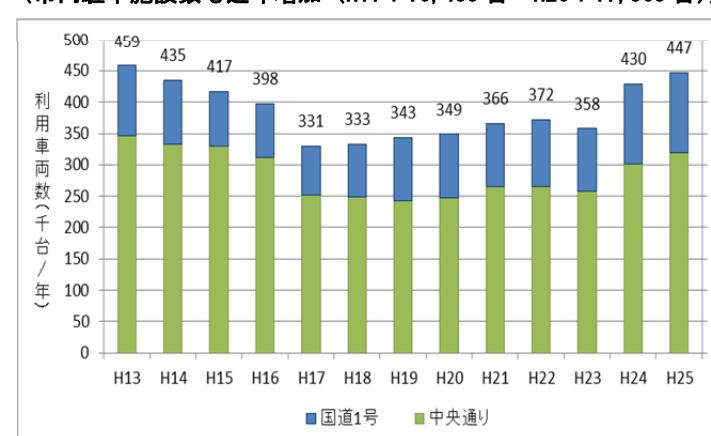
▲：北側車線では朝7時台に約150台の路上駐停車
瞬間最大滞留台数13台（19時頃）



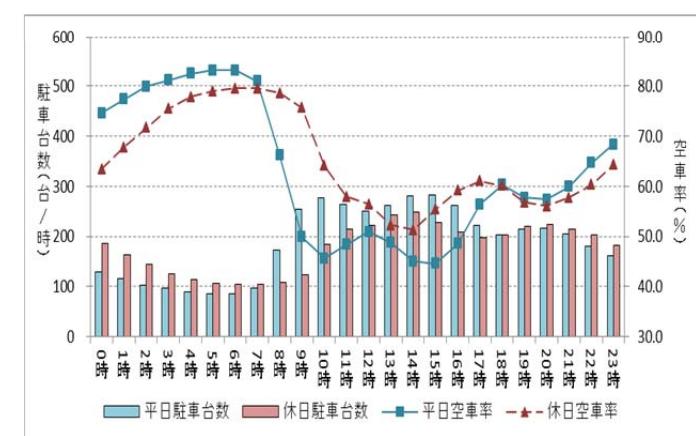
▲：南側車線では概ね20台/時以下の路上駐停車



●駐車場の状況：くすの木パーキングの利用は近年回復傾向
(市内駐車施設数も近年増加(H17:16,435台→H26:17,363台))



図：くすの木パーキングの利用車両数の推移



図：くすの木パーキングの利用状況

■中心市街地における交通量

【中心市街地における歩行者交通量図】

【歩行者】交通量図 12時間計 7時～19時

調査日：平成28年11月18日（金）

* 赤帯の表示は今回の交通量調査結果である。一方、青帯の表示はH27年度実施の中心市街地歩行者交通流动調査結果であり、9時～19時の10時間の計測結果である。

